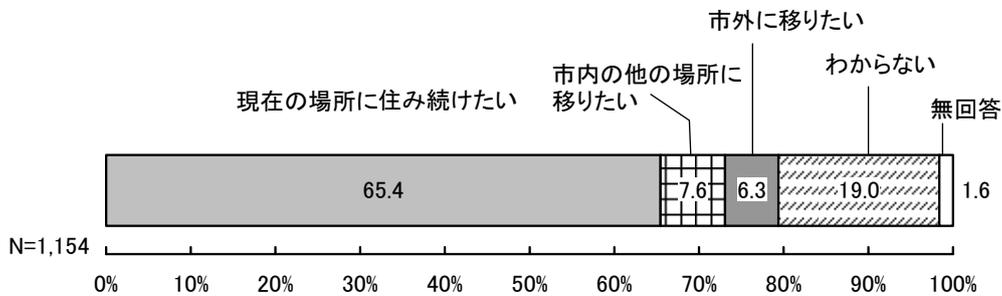


4 調査結果

◆定住意向、健康、環境、社会活動等

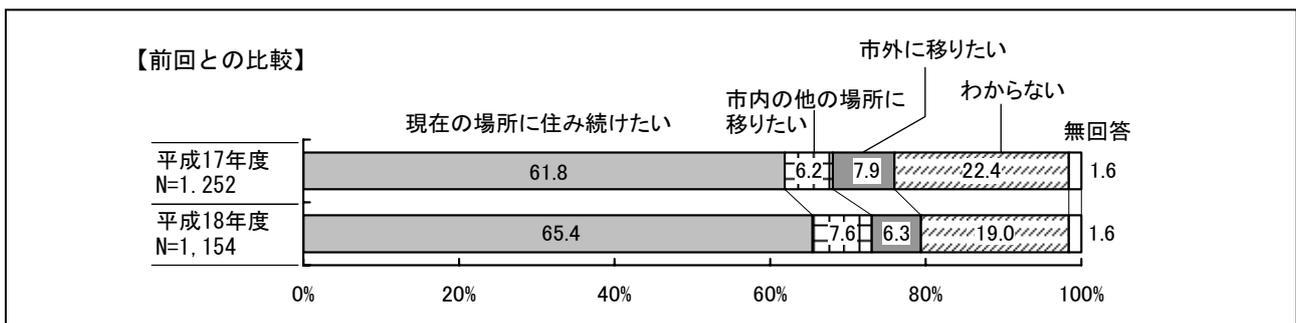
問1 これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

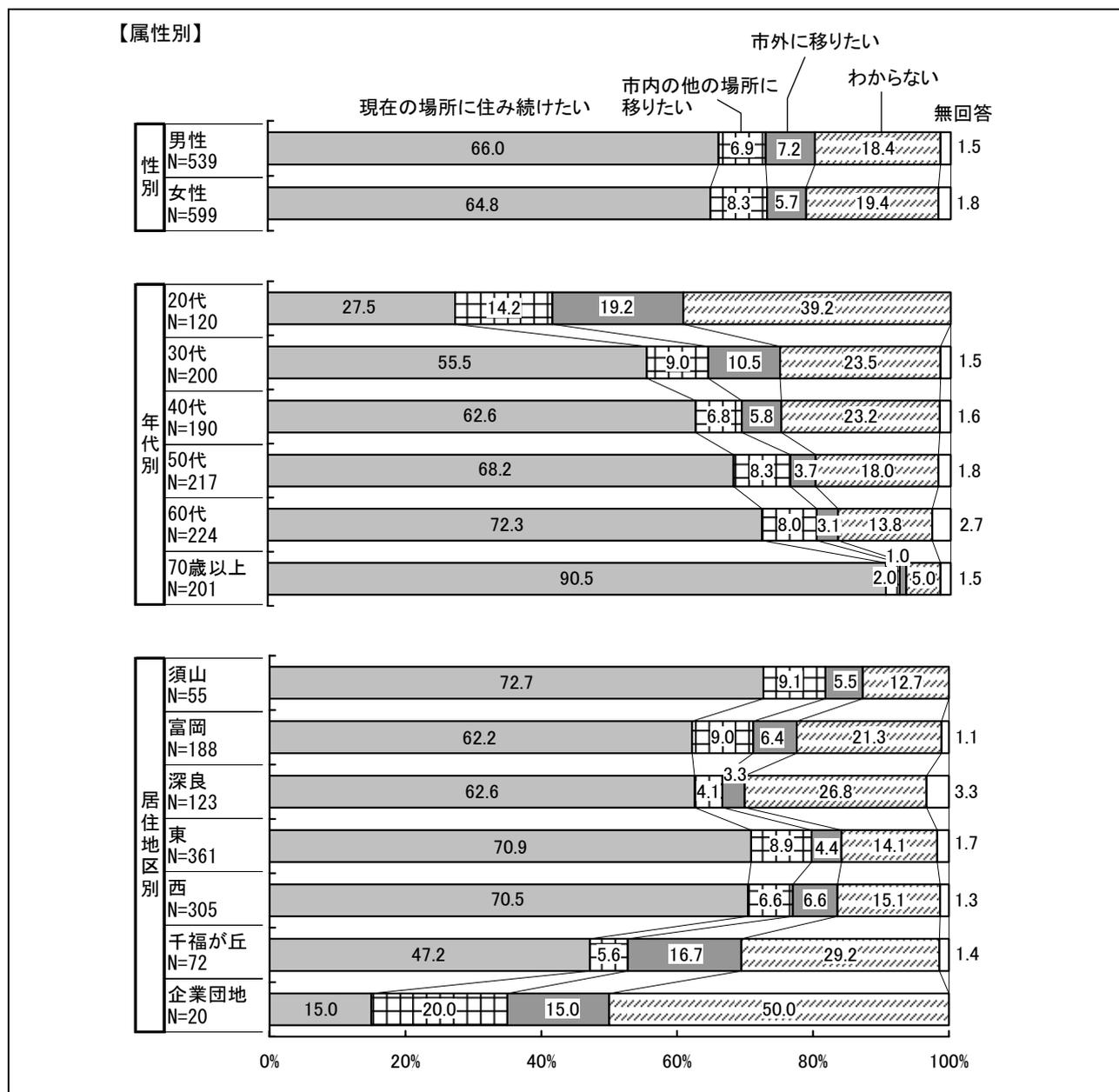


定住意向が6割以上。移転意向は「市内の他の場所」、「市外」とともに1割未満。年代が高いほど定住意向が高く、20代では移転意向が定住意向を上回る。

定住意向は、「現在の場所に住み続けたい」が65.4%と6割以上を占めている。移転意向はいずれも1割に満たない。「市外に移りたい」が6.3%である。

下記のグラフにあるように、前回の調査＝平成17年度調査と比較すると、「現在の場所に住み続けたい」は、今回の調査の方が3.6ポイントほど上回っている。しかし、移転希望率はほとんど差がみられず、「市外に移りたい」についてはわずかに低くなっている。



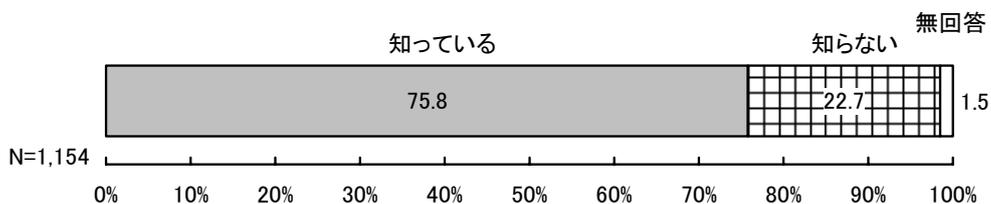


属性別にみると、性別では大差はみられない。

年代別では、「現在の場合に住み続けたい」という定住意向は年代が上がるほど高い割合になっている。20代では27.5%であったのが、70歳以上では9割を超える回答になっており、差が顕著である。反対に移転希望率は20代で最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。特に20代は「市外に移りたい」が2割近くを占めている。

居住地区別にみると、須山、東、西の3地区は「現在の場合に住み続けたい」が7割以上を占めている。一方、千福が丘や企業団地では定住意向は半数を下回っており、特に企業団地では「市内の他の場所に移りたい」が2割となっている。

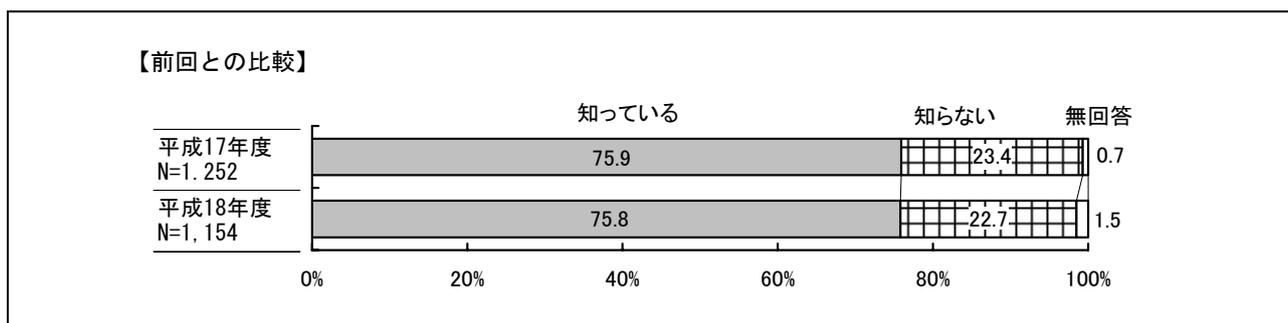
問2 ご自身の適正体重を知っていますか。(1つに○)



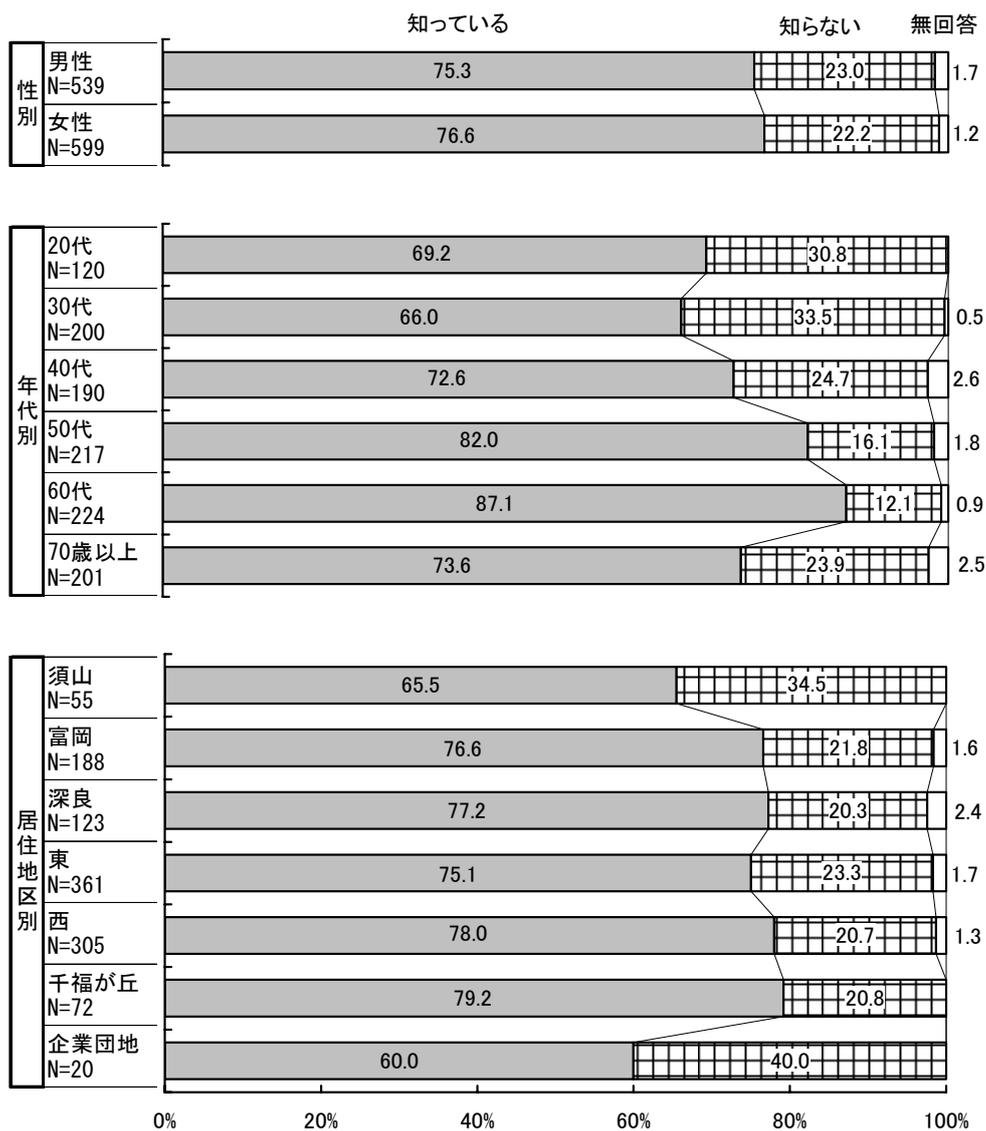
適正体重を「知っている」は約4人に3人の割合。
30代でやや低い傾向。

適正体重は、「知っている」が75.8%と大半を占めている。

下記グラフにあるように前回と比較すると、ほとんど差はなく、「知っている」も「知らない」も1ポイント差にも満たない。



【属性別】

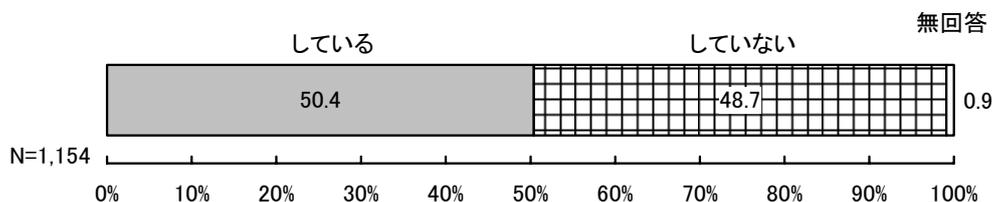


性別による差は、ほとんどみられない。

年代別では、30代に「知っている」がやや低くなっているが、年代が高い方で割合が高い傾向がみられる。

居住地区別では、須山と企業団地で「知っている」が他の地区に比べて低く、いずれも6割台になっている。

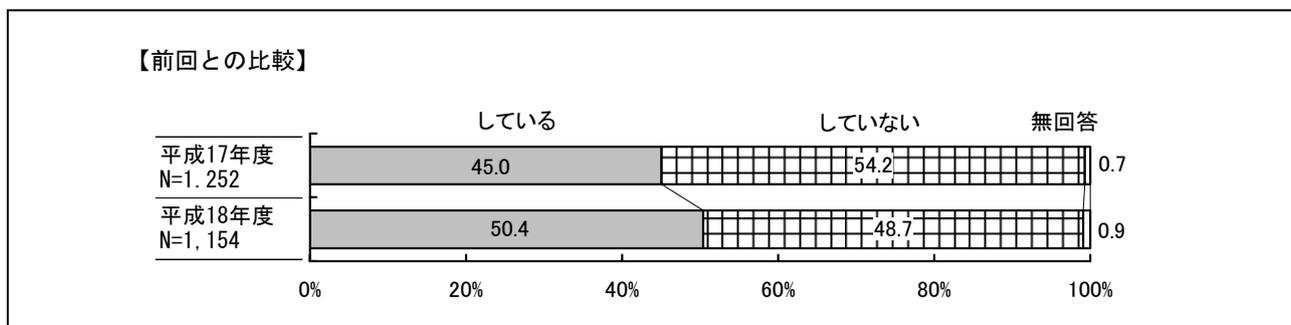
問3 適正体重に近づくように体重をコントロールしていますか。(1つに○)

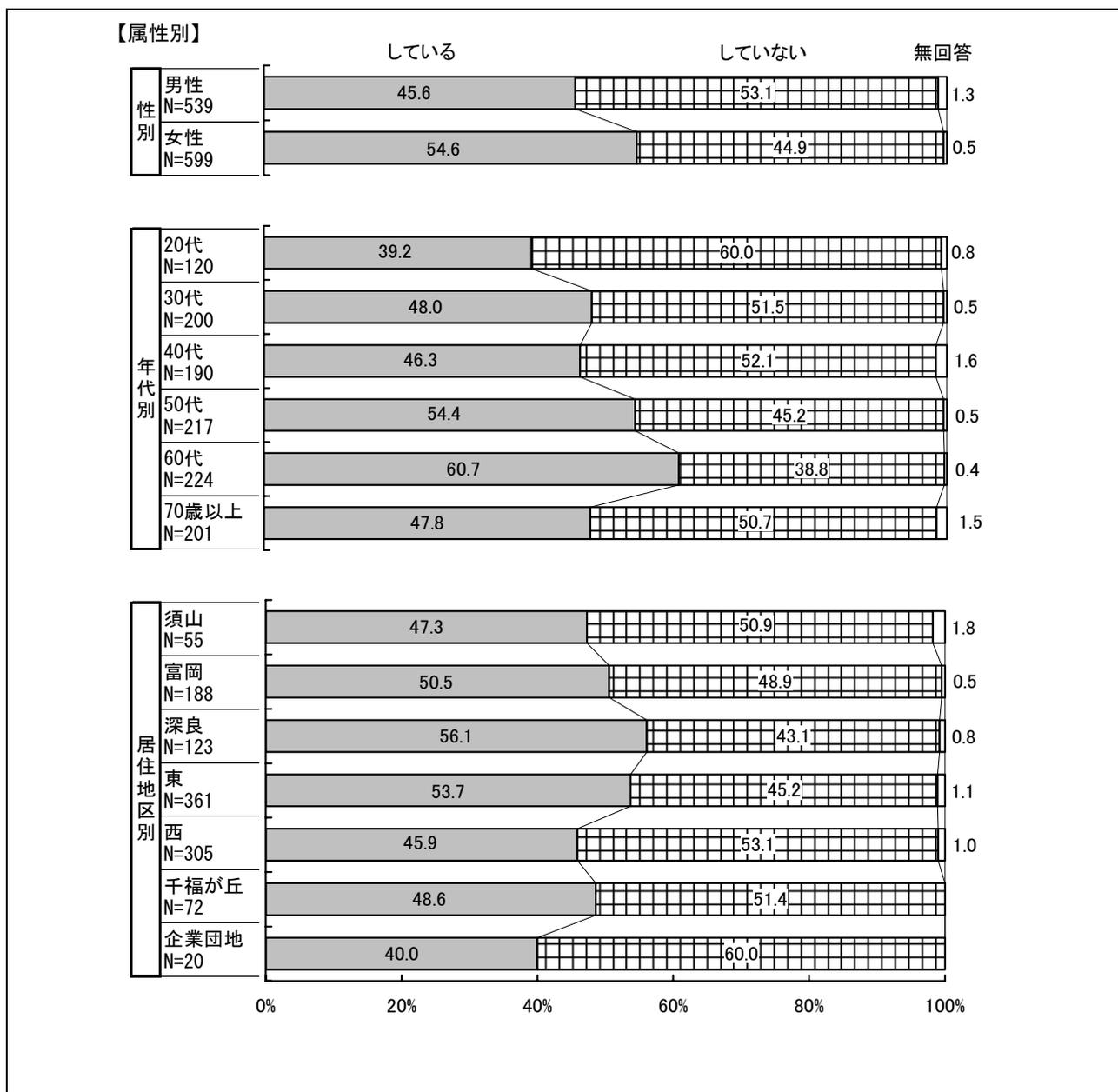


体重コントロールは、「している」「していない」がほぼ半々。
男性より女性が、また年代が高い方が「している」割合が高い。

体重コントロールは、「している」が50.4%、「していない」が48.7%と、ほぼ半々になっている。

下記のグラフにあるように前回と比較すると、前は「していない」が過半数で、「している」を9.2ポイント上回っていたが、今回は差がほとんどなくなり、「している」割合を前回と比較すると、5.4ポイントの上昇となっている。



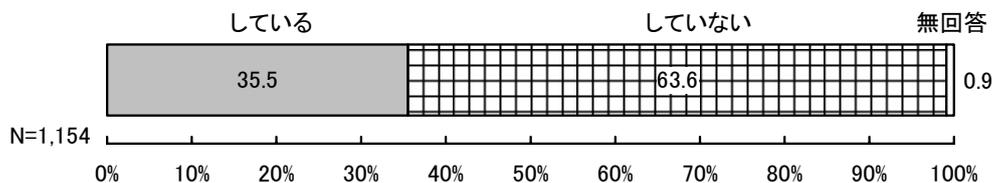


性別にみると、「している」は女性が多く、男性を9.0ポイント上回っている。

年代別では、「している」は年代が高いほど割合も高くなる傾向である。最も高い割合は60代で6割に達している。

居住地区別では、富岡、深良、東で「している」が過半数を占めている。

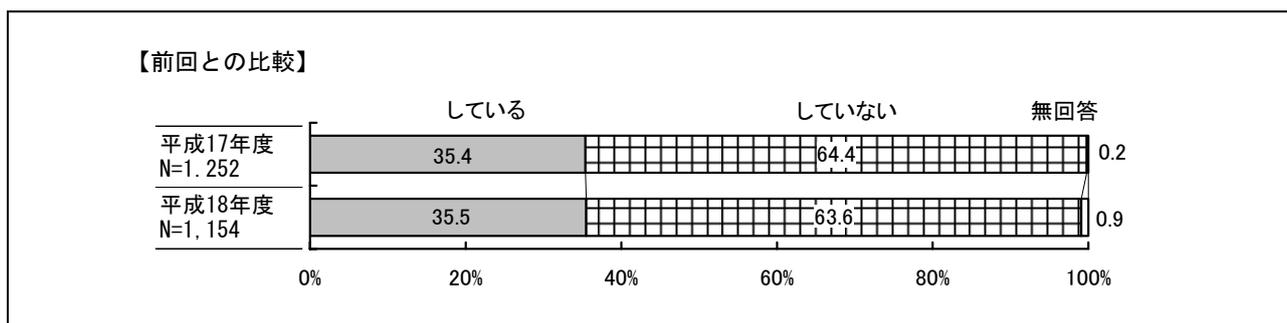
問4 日頃から、運動・スポーツ(概ね週1回30分以上)をしていますか。(1つに○)



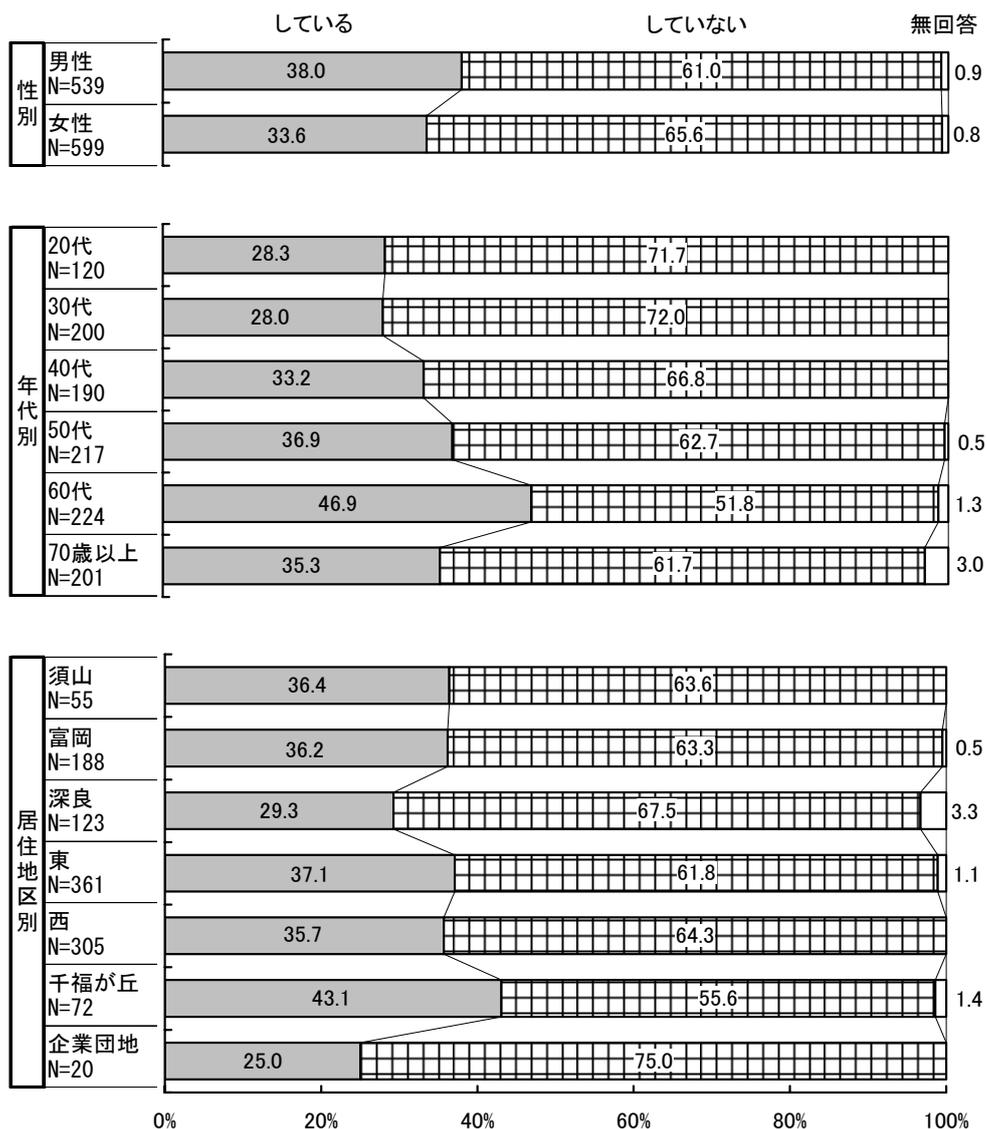
定期的な運動は「していない」が過半数。
女性より男性の方が、また年代が高い方が「している」割合が高い。

日頃の運動・スポーツの実施状況は、「している」が35.5%で、「していない」が6割以上を占めている。

下記のグラフにあるように前回と比較すると、ほとんど変化はない。



【属性別】

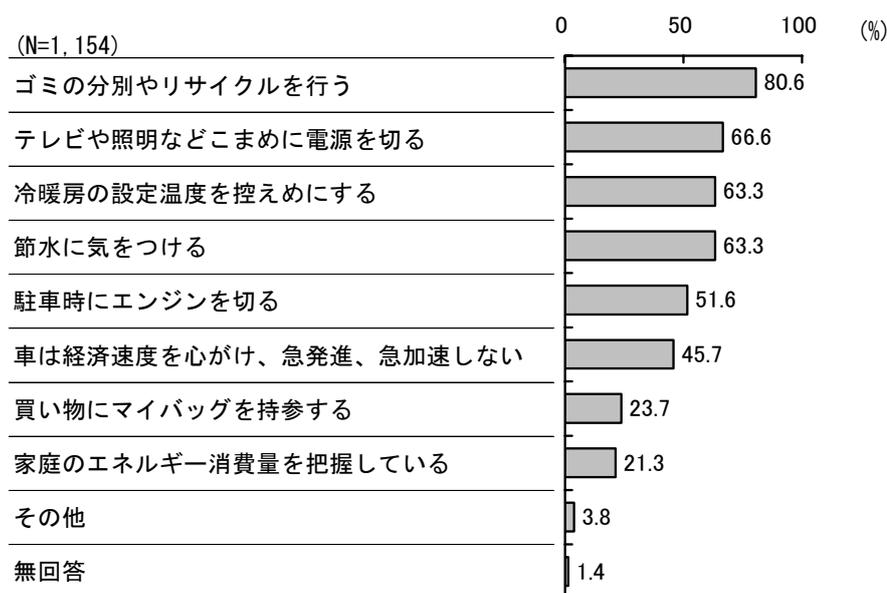


性別にみると、「している」は男性が女性をやや上回っている。

年代別にみると、「している」は60代まで年代が高いほど高くなる傾向がみられ、60代では46.9%と半数近くを占めている。

居住地区別にみると、千福が丘で「している」が43.1%と高くなっている。一方、企業団地では「している」は25.0%と、4人に1人の割合にとどまっている。

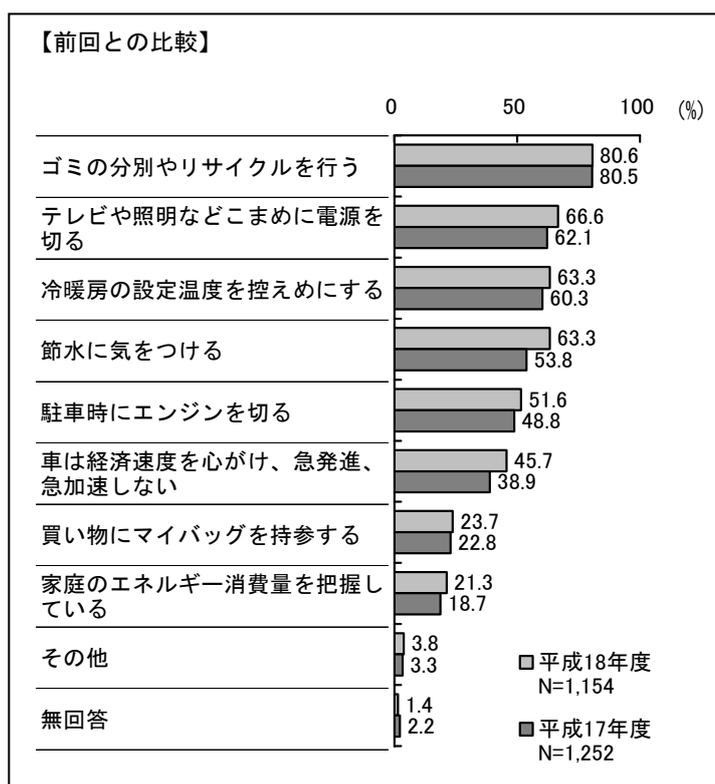
問5 日頃から、環境にやさしい生活を心がけていますか。(心がけているもの全てに○)

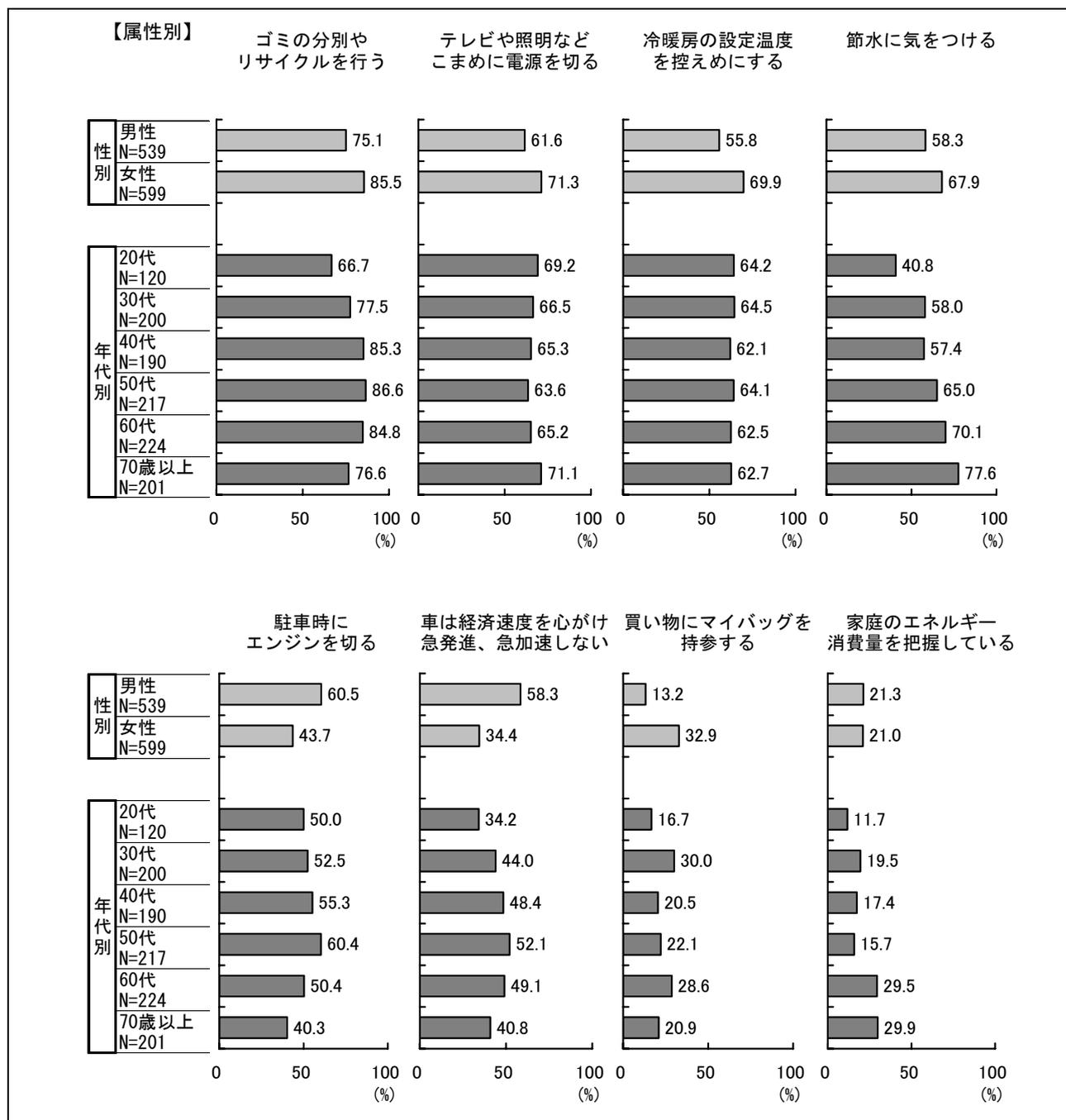


日頃環境に対する意識が高く、8項目中5項目で5割以上の回答。いずれの項目も、前回の調査に比べて高くなっており、意識の高揚がみられる。

日頃、環境にやさしい生活について心がけることは、「ゴミの分別やりサイクルを行う」が80.6%で最も高くなっており、次いで「テレビや照明などこまめに電源を切る」が66.6%、「冷暖房の設定温度を控えめにする」、「節水に気をつける」がともに63.3%の順となっており、8項目中5項目で5割以上の回答と、環境に対する関心が高いといえる。

右記グラフのように前回と比較すると、順位は同様であり、いずれの割合も前回をわずかずつ上回っている。特に差が目立つ項目は「節水に気をつける」で、9.5ポイント高くなっている。

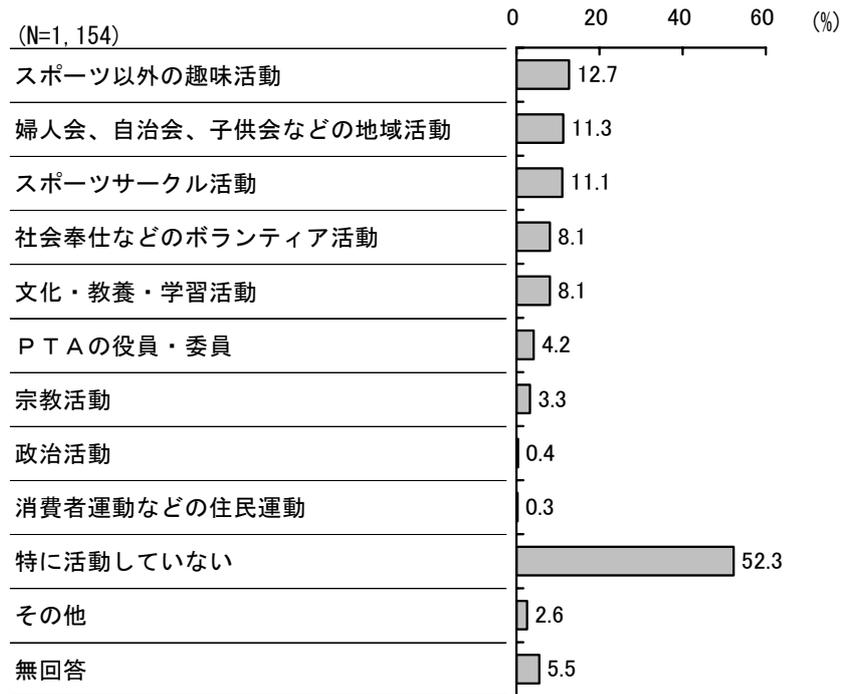




性別にみると、「駐車時にエンジンを切る」と「車は経済速度を心がけ急発進、急加速しない」といった、車に関連する事項では、男性が女性より高くなっているが、他の大半の項目において女性が男性を上回っている。特に「冷暖房の設定温度を控えめにする」では14.1ポイント、「買い物にマイバックを持参する」では19.7ポイント、男性を上回っており、女性の方が意識は高いといえる。

年代別にみると、「ゴミの分別やリサイクルを行う」「駐車時にエンジンを切る」「車は経済速度を心がけ急発進、急加速しない」は40代、50代の中間年代層で高い傾向である。また、「節水に気をつける」は年代が高くなるほど高い割合になっている。

問6 現在、仕事以外に家庭の外で、何か活動をしていますか。(該当するもの全てに○)

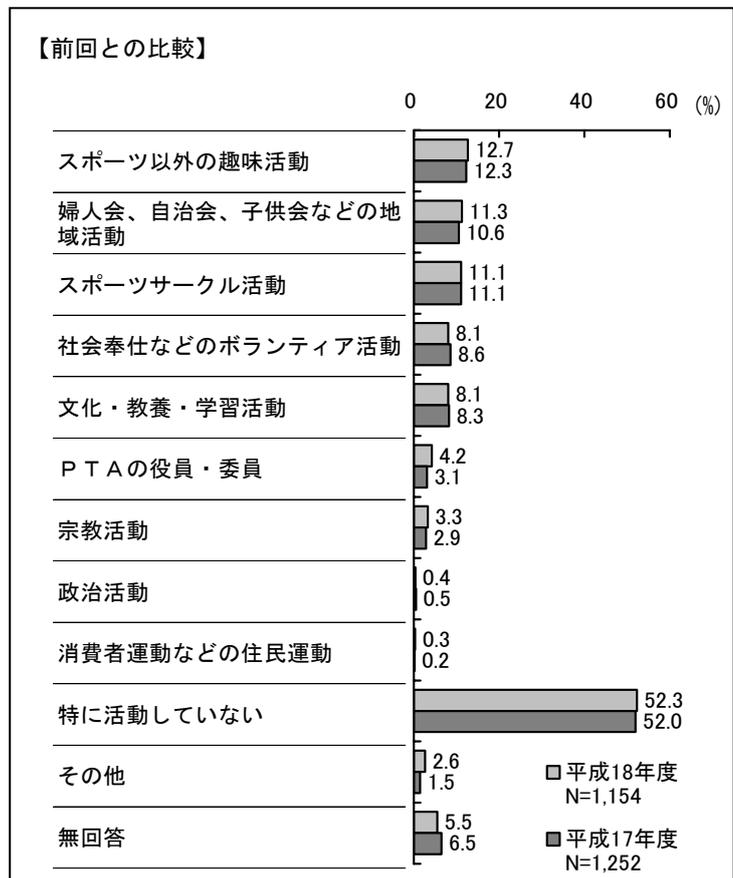


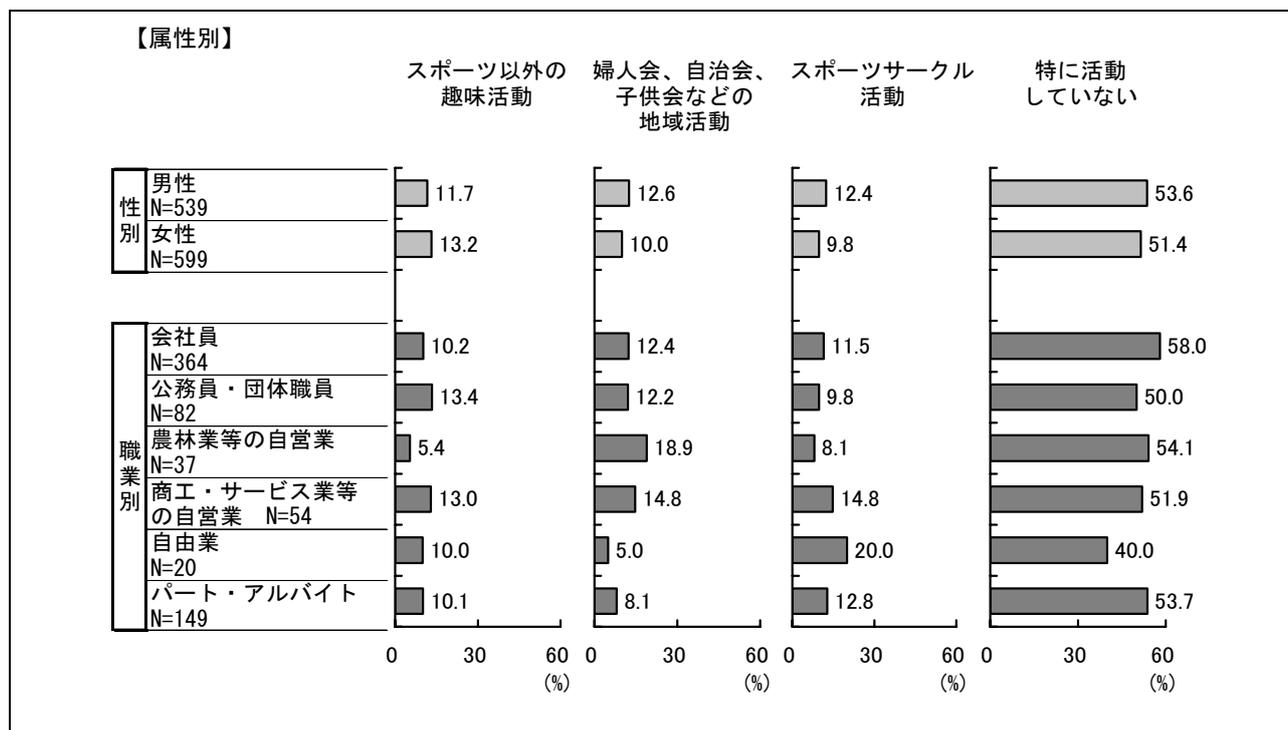
仕事以外の活動をしている割合は約4割。
 農林業等の自営業は「婦人会、自治会、子供会等の地域活動」が2割で趣味活動は少ない。

仕事以外の家庭外の活動は「特に活動していない」が52.3%と、過半数を占めている。

これに無回答を合わせて、全体から除くと、活動をしている割合は約4割といえる。その中で最も多いのは「スポーツ以外の趣味活動」で、12.7%となっている。次いで「婦人会、自治会、子供会などの地域活動」が11.3%、「スポーツサークル活動」が11.1%の順となっている。

右記のグラフにあるように前回と比較すると、やや順位は入れ替わっているものの、割合はほとんど差がみられない。





全体の回答で1割を超える上位の3項目と「特に活動していない」について属性別にみると、性別では大差はないが、「スポーツ以外の趣味活動」のみ女性がわずかに多く、「特に活動していない」は男性がわずかに多い。

職業別にみると、「スポーツ以外の趣味活動」でほとんどが1割を超えている中、農林業等の自営業のみ5.4%と少ない。一方「婦人会、自治会、子供会などの地域活動」は18.9%と、職業別中最も高く、2割近い回答となっている。「特に活動していない」は、自由業で40.0%と低くなっている。